

「地域再生伝道師、意見交換会

経済界の活用が有効



事例発表に耳を傾ける出席者
＝鹿児島市のマリネパレスかごしまで

「地域再生伝道師意見交換会 in 鹿児島」(内閣官房地域再生推進室主催)が14日、鹿児島市のマリネパレスかごしまで開かれ、愛知県をはじめ西日本の都道府県の「地域再生伝道師」ら約70人が出席。地域再生に向けた各県の取り組み事例の発表や意見交換などが行われた。

交換会に先立ち、県企画部の岡田常治部長が「本県も地域再生伝道師による出前講座など、ネットワークを広げながら地域活性化に向けて取り組んでいる。また、民間資金の活用など実効性のある活動をさらに推進したい」と挨拶した。

その後、活動報告として愛媛県の岡田清隆さんが「愛媛県の構造改革・発表後、会場から「講習会や説明会などの手応えや反応は?」「経営者と事務局に意識の温度差があるのでは?」などの質問に「まずは県職員の意識改革が必要」「経営者との話し合いを促進」

「経済界を活用すること」も有効」などとアドバイスしていた。

【地域再生伝道師】地とも、地域再生の提案

九州地方整備局鹿児島国道事務所は14日、国分市の国分シビックセンターで「ちやくちやくプロ」市町のNPO法人、男女

活発な意見が交わされた講座
＝国分市の国分シビックセンターで

共同参画推進懇話会、都市計画審議会など約80人が出席して意見交換を行った。講座は指宿維持出張所、阿久根維持出張所に続いて3回目の開催。遠矢正憲加治木維持出張所長の進行で始まった講座では、柴田智副所長が「九州初の取り組みであり、出席者それぞれの立場から地域にふさわしい道づくりへ生を聞きたい」と挨拶。続いて各担当者からちやくプロの概要や管内実施箇所、道守かごしま会議、ボランティアアサポートプログラム、道路の維持管理等について詳細な説明があった。

募集やアドバイスを行い、地域と国とのパイプ役として各都道府県単位で選任されたもの。

松田理事長らが訪問

住宅産業研修財団

大工坂口サン建築を視察

住宅産業研修財団(松田妙子理事長)は14日、16年度大工育成塾受入工務店の坂口サン建築(坂口三郎社長、鹿児島市)を訪れ、これまでの指導内容や塾生の現場実習状況等を視察した。



視察する松田理事長
＝鹿児島市の現場で

入塾から約9カ月が経過し、実際の建築現場でも見習いとして作業を始めた淵脇さん。不慣れた作業もあって手はばたきそうだったが、現場でミスをすると「やっぱ自分には向いていないかも」とと落ち込んでいた。松田理事長は、「さすが九州男児!よく頑張っている。この仕事に誇りを持ってほしい」とエールを送った。また、坂口社長にも「3年で一人前にしたい」という強い意志が伝わってきた。こんな素晴らしい棟梁にめぐり合えて、彼は幸せです」と目を細



パンジーなどの植樹も行われたボランティア
＝加世田市の加世田合同庁舎で

南薩造園建設業協会(中島辰雄会長)は10日、加世田市の加世田合同庁舎敷地内の緑地帯の剪定、伐採、除草等の清掃作業をボランティアで実施した。

ボランティアは、専門的な技術を生かすことで地域住民に造園業の取り組みを広く理解してもら

剪定など技術生かす

当日は、合同庁舎玄関前に集まった参加者を前に中島会長が「年末の多忙な時期に参加いただいたことをうれしく思う。今後の来客の出入りが多い」と激励の言葉を述べ、

大島支庁徳之島事務所土木課は10日、大島郡徳之島町で整備を進めている砂防工事・里久川(施工・徳之島建設)の現場で、花徳小学校の5、6年生26人を対象に現場見学会を行い、公共事業のあり方、社会資本の役割などを学んだ。

徳之島事務所

花徳小児童現場見学会

砂防の防災対策学ぶ



芝建設の現場で記念写真
＝徳之島町の現場で

同事務所では、小学校教育の「総合的な学習時間」を活用し、防災対策や公共事業のあり方、社会資本の役割や整備の必要性を広く知ってもらい、「ふるさとの大切さ」について自由な発想によって意見をもらい、今後の防災や事業推進の糧にするために、請負業者の協力を得て現場見学会を開催した。

挨拶し、ビデオ鑑賞に続き、施工を担当している(株)芝建設の前田勇浩現場代理人から工事の概要や施工手順などの説明が行われた。

このあと、現場見学に移り、コンクリートダムの本堤などを視察した。小学生らは澄んだ里久川にうなぎやフナ、カニなどは住んでいるのか、測量機器はいくらするのかなど質問していた。また、光波の測量機械の値段の高さなどには驚いていた。現場代理人からは「今日勉強したことを家に帰って、お父さんやお母さん、兄弟に教えてあげてください。また、後から疑問に思ったことなども質問してください」と笑顔で声をかけていた。